

16. 運命共同体の設置と課題

(1) 大府市在宅医療・介護連携推進会議(代表者会議) 年6回

①本事業の代表者会議 多職種連携による在宅医療支援体制の構築のため

○構成機関 医師団、歯科医師会、薬剤師会、訪問看護事業所、居宅介護支援事業所連絡協議会
通所系サービス事業所連絡会、訪問介護サービス事業所連絡会、理学療法士会
NPO法人、高齢者相談支援センター、社会福祉協議会、国立長寿医療研究センター、
認知症介護研究・研修大府センター、愛知県知多保健所、あいち介護予防支援センター

委員19人

☆現状:在宅医療・介護にかかわる関係機関の代表を一堂に集めた。

⇒多職種の顔のみえる関係づくりに役立っている。

☆課題:人数が多いこと。関係団体を代表しており、自由に発言できない雰囲気がある。

報告や検討事項が多く、意見を言えない場合がある。また、意見を言っても、言うのみで、ディスカッションにはなりにくい。会議意欲に温度差ができてしまった。

⇒次年度には委員数を適正にし、委員(現場)とオブザーバー(助言者的立場)を分ける等の配慮をしていきたい。



17. 運命共同体の設置と課題

(2) 課題別ワーキンググループ 在宅に関わる機関より委員を選出、自主的な参加もOK

①情報共有 (ICT含む) ワーキンググループ 年6回 委員10人

・・・多職種に必要な情報、連絡方法の現状、ICTシステムの試行と検討、導入に向けての準備

②24時間体制ワーキンググループ 年5回 委員9人

・・・主副担当やチーム制の検討、事例検討 私の安心メモの作成

③認知症対応ワーキンググループ 年5回 委員11人

・・・事例検討、気づきシートの作成・試行・検討

☆現状: 会議前打合せを、訪問看護師や介護支援専門員と高齢者相談支援センターの有志委員と行った後、代表である医師に相談して会議を開催している。
⇒人数も少なめで、課題が具体的であり、自由に発言してもらっている。

☆課題: 話し合いの課程を大切にしつつも、具体的な成果物ができるように検討中。



大府市在宅医療・介護連携推進会議 組織図



代表者会議

課題別ワーキンググループ(WG)



情報共有WG

24時間体制WG

認知症対応WG



大府市
Welcome to OBU City

「みんな輝き 幸せ感じる 健康都市」

18. 地域の課題と解決策

(1) 事業開始前 事務局が捉えていた課題

- ①在宅に関わる医療機関は一部のみで、負担を感じている。
- ②24時間体制の事業所は少ない。
- ③医療と介護等の多職種が連携するための、情報共有ツールがない。

(2) 事業開始後取組みを進める中で見えてきた優先順位の高い取組み課題

- ①在宅療養をする患者・家族が安心できること。
- ②医療や介護支援者の負担を和らげること。

(3) 重要ポイント

顔の見える信頼関係のもとで、必要な情報を多職種間で共有できるツールがあると、患者、家族、支援者の安心が得られる。



19. 前半の振り返りと改善策

- (1) 専任体制となり、研修会や会議の開催等は順調に進捗できたが、地域に出向くまではいかない。
- (2) ロードマップは適宜見直しをして、ほぼ計画通り進捗した。
- (3) 委員や講師の積極的な協力で運営できている。在宅医療に対する温度差はまだ解消できていない。いかに熱い人を増やして行くか。
- (4) 自分の終について、市民自らが考えて、それを選ぶことができるようなまちにしたい。地道な市民啓発は今後も継続していく必要がある。
- (5) バックベットの確保や医療従事者の専門研修はほとんどできていない。近隣病院、地域連携室等との顔の見える関係づくりが今後の課題である。



20. 大府市の特徴的な活動

(1) (独)国立長寿医療研究センター、あいち介護予防センター、認知症・介護研究研修大府センター等日本や世界に発信できる機関の委員と一緒に意見交換ができる。

⇒今まで接点のなかった専門職と顔のみえる関係となり、
今後も相談・連携していけるというメリットがある。

(2) まずは在宅に熱心な医療と介護の連携からスタート
小さな連携からコツコツと。初めから欲張らない。人は急には変わらない。
そのためにも、各機関にキーパーソンをつくった。

⇒無理なく、継続できる仕組みや組織をつくる。



21. 来年度にむけて

- (1) 在宅医療・介護に携わる連携のための会議や研修会を実施して、顔のみえる関係づくりができた。
- (2) 連携強化のための情報共有ツール(ICT)の導入を行う。
- (3) 関係者が連携しやすい事務局機能の確保が必要
- (4) 知多北部広域連合及び他の2市1町に、研修会等の際に参加勧奨し、27年度は3市1町ともに在宅医療連携事業を開始予定となった。
- (5) 専門研修は県レベル等広域実施が望ましい。
- (6) 情報発信や地域で地道な市民啓発活動を強化する。





WHO健康都市おおぶ

22. 補足



(1) 第3回全体会議・多職種連携研修会

講演「終末期医療、がん治療の最新情報」と質問コーナー

講師:いきいき在宅クリニック(元長寿医療研究センター 緩和ケア診療部長) 中島一光氏、
長寿医療研究センター緩和・EOLケアチーム(医師) 西川満則氏

質問コーナー「在宅医療介護の現場をお互いに理解しましょう」

日時:26年11月6日(木)13時半～15時半 場所:大府市保健センター

(2) 市民講座

「在宅ケアの不思議な力 ～健やかに暮らし、人生を全うするために～」

講演「在宅ケアの不思議な力」

講師 (株)白十字訪問看護ステーション白十字ヘルパーステーション所長 秋山正子氏
大府市の在宅ケア事例報告・大府市在宅医療連携拠点推進事業報告

日時:27年3月1日(火)13時半～16時 場所:市役所地下多目的ホール



大府市

Welcome to OBU City

「みんな輝き 幸せ感じる 健康都市」²⁷



WHO健康都市おおぶ

23. 問合わせ先



大府市役所福祉子ども部福祉課高齢者支援室

担当者: 多田、山本

メール: fukushi@city.obu.lg.jp

電話 : 0562-47-2111(代表)内線365
0562-45-6289(直通)

FAX : 0562-47-3150

住所 : 〒474-8701

大府市中央町五丁目70番地



大府市

Welcome to OBU City

「みんな輝き 幸せ感じる 健康都市」 28